

甲板敷

甲板敷多クハ人員馬匹ヲ多ク積載スルニ難キ明板敷ナキハ積載多シ

壓縮水槽

船底ノ全部若クハ重要ナル一部ヲ二重トシ以テ船底破損スルモ船ヲ安全ナラシメ兼テ水料ノ貯藏ニ供ス此貯藏水重ノ多寡ハ船船使用ノ目的ニ從ツテ必要ナル者ナリ

防水區劃

船體ノ一點破損スルモ全體浸水ノ害ヲ防ク爲メニ設ケルモノナリ商船ニ在ツテハ通常七乃至八個以下ニ區劃シテアリ

橋ノ高サ

橋數ハ船船ノ認識ニ便ニシテ橋高ハ他船ヨリ距離ヲ計ルニ必要ナリ其橋ノ長短一定ナラザルモ通常二千噸以上ノ船ニ在ツテハ九〇乃至一〇〇呎五百噸乃至千噸ノ船ニ在ツテハ五〇乃至七〇呎多シトス

避雷針

二三個ヲ備フルハ必要ナリ

構具裝方機關ノ種類推進機ノ種類

最大汽壓

五百五十磅ノ重量ヲ一秒ニ一呎ノ高サニ揚ケル力ヲ云フ馬力ニ

馬力

馬力ト云フハ公稱馬力トシテ二種アリ甲ハ實際運轉中ノ實力ヲ云ヒ乙ハシロントルノ値ニ依リテ計算上ヨリ出シタル者ナリ公稱馬力ハ船ノト必要ナシ

石炭貯蓄一晝夜ニ費ス油及脂ノ量

全速力

全速力ハ機關ノ堪ヘキ最大速力ナリ又尋常速力一名經濟速力ハ消費石炭ト所要時間トヲ算當シ最モ經濟ニ適スル如ク定メタル速力ナリ通常全速力ノ四分ノ三トス

蒸溜水

船船ノ多クハ海水ヨリ蒸溜水ヲ取ルノ器機ヲ備フ

貯飲用水

船船ノ水櫃ニ貯藏スル飲用水ヲ補フ爲メ假製水櫃ヲ備附スルヲ長トス水櫃ハ鐵或ハ亞鉛製ヲ可トスレトモ之レヲ得サル時ニハ木製水櫃ヲ以テス此木製水櫃ハ每個ノ容量五噸ヲ超ヘサルヲ買

積荷器械

此器械ノ積ニ附ケタルテリクト稱スル装置ニ據ル通常ノデリックハ五噸乃至三噸ノ重量ヲ揚ケルモノトス小蒸氣船火砲ノ如ク大

積荷器械

積荷器械ノ積ニ附ケタルテリクト稱スル装置ニ據ル通常ノデリックハ五噸乃至三噸ノ重量ヲ揚ケルモノトス小蒸氣船火砲ノ如ク大

船隻ノ種類ハ、海軍ノ艦艇及民船ニ分ル

船員ノ出入ニ關係アリ其限額キテ可トス

客室ノ多寡兵馬軍需品搭載量

積(重量幾何噸、方積幾何噸)

乗組定員(船長、運轉手、機關手、事務掛、水夫、火夫、雜夫、船艙ニ附帶スル乗組員)

附

便所ノ配置ハ乗組員百人ニ付キ一個ツ、ノ割合ヲ以テ之レナシ
備スルナラズ英國ノ制ニヨレハ百人ニ付三個ノ割合ナレトモ
船ニヨレハ我運送船ニアラズテハ百人ニ付一個ノ割合トナスモ
支ヘアルコトナシ

以上ノ事項ニ就テ各船舶ヲ調査シ其各船舶ニ應シ馬糞糶等ヲ設置
スルハ位置員數或ハ荷物積載ノ重量小蒸汽船、駁舟等幾何ヲ載セ得ル
等ヲ計リ以テ其用途ヲ定メ各用途ニ配船ス

港灣ノ調査

1 平常出入スル船舶ノ大小多寡

2 港内ノ淺深海底ノ土質岩礁ノ有無

軍艦ノ碇泊ニハ十噸(一噸ハ六呎)ヲ最大トス、海軍ノ土質ハ堅泥ヲ最
良トシ、次ギハ軟泥、礫石、岩等ナリ

3 港灣ノ廣狹收容シ得ヘキ運送船ノ數、投錨地ト陸地トノ距離

港内ニ船舶ヲ留置スルニ當リ各船ノ間隔ハ二シロフトルヲ存スルナ
ラズ、蓋シ船舶ノ最大長サ七十間トシテ、錨網ハ水深ノ三倍、水深八十
尋トシテ計算スルモノナリ一ケイノルハ百間ナリ

4 岩礁ノ景況、遠淺、斷崖、築立等乗船場ノ廣狹、便否

5 風害ニ對スル安否、一年中ノ氣象及氣象ヨリ起ル威應、乗船場陸
ノ難易)

6 暴風ノ際ニ於ケル避難地ハ近傍ニ在リヤ否ヤ

7 内陸ノ交通道路ノ良否、電信、電話ノ有無、勿論

- 8 近傍一指定セシテ得ヘキ軍艦ノ大小在ホノ倉庫之レヲ新築ス
- ヘキ埠頭乘船前集合地ノ廣狹出入路ノ便否
- 9 其地ニ於テ徵集スヘキ小蒸汽船、舢舨等ノ員數種類或ハ之レヲ求ムヘキ地方波止場、棧橋ノ有無景況之レヲ軍事ニ徵用シ得ルヤ否ヤ
- 10 船用炭水ノ在否之レヲ供給スヘキ地及其方法
- 11 船舶ノ修繕、船用品及ヒ船用食品等ヲ其地ニテ調辦スルノ便否

(三) 材料ノ調査整備

馬力大ニシテ曳船ニ適シ且ツ重大ナラシテ運送船ニ搭載便利ナルヲ要トス從來ノ經驗ニヨレハ總噸數二千五百噸以上ノ船舶ニ在リテハ本船固有ノデリックヲ以テ重量約十五噸ノ小蒸汽船ニ關シテ等分解スルコトナクシテ甲板上ニ搭載スルコトヲ得ルナリ

舢舨、小艇、橋材、料馬、繩、其附屬品等ノ整備多寡

馬 絡 繩 數 一 馬 匹 數 ノ 約 四 分 ノ 一 ナ 備 フ ル ヲ 要 ス

馬 帶 帶 數 一 馬 匹 ノ 數 ト 同 數 ナ 備 フ ル ヲ 要 ス

帆布製風取、水櫃、水櫃帆布製布呂槽、船口用階梯及其雨覆、船旗、信號、用書類及ヒ器具、客室用燈、船内炊爨用器具、テック材料、各種網、海圖、其他各種船用品等ノ多寡整否

以上備附品ハ船舶徵發ノ際契約ニ因ツテハ船主ノ負擔トナルコトアレトキ急遽ノ際事ニ應メ得ンニハ軍時輸送官衙ニ於テ準備シ置クヲ良トス

(四) 船舶ノ分配

戰時若クハ時變ニ際シ政府ハ何時ニテモ徵發令ニヨリ國籍ニアル船舶ヲ召集使用スルノ權能アリト雖モ元來徵發令ハ國家全體ノ利害上

甚ク有難ナルモノニアラス人民モ亦其甚ク之ニ應スルヲ好マサル
モノナルカ故ニ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外ハ徵發ニヨラスシテ
ルヘク之レヲ賃借スルコトトシ相當ノ使用料ヲ給與スルヲ得ルヲ得
策トス

船舶ヲ選用スルニハ先ツ船舶要目表中ヨリ戰時海運ニ適合スルノ資
格ヲ有スル各種ノ船舶ヲ探撰シ運輸通信長官部ヨリ船主ニ命令シ時
日ヲ期シテ海運部所在ノ港灣ニ回航シ檢定委員ノ検査ヲ受ケシムル
モノトス

運送船ハ船體及ヒ機關ノ現狀速力炭水消費高起重器端舟其他ノ搭卸
裝置船内居住配備等ノ適否程度ニヨリ等級ヲ定メ以テ賃給額ヲ定ム
若シ又檢定委員ノ指定ニ從ヒ船主ノ自辨ヲ以テ相當ノ改築若クハ造
作ヲナシタルモノハ其程度ニヨリ船舶等級ヲ進マシムルコトヲ得ル

モノトス戰時陸軍ニ要スル運送船ノ用途ニ從ヒ之レヲ區別セハ概テ
左ノ如シ

各地交通船通信船

各方面ニ從ヒ航路ヲ定メ人員荷物ノ輸送多寡ヲ問ハス勉メテ定期ノ時日
ニ各地ニ發着セシメ以テ連絡ヲ取ラシム
電報ノ連絡ナキ兩地間ノ交通ハ尤モ頻繁ナルヲ要ス
作戰上陸後若干時日間ハ作戰地ト内地トノ通信機能ヲ一層敏活ナラシム
ル爲メ特ニ若干ノ專務通信船ヲ置キ定期及ヒ臨時ノ航海ヲナサシムルヲ
必要トス
通信船ニハ多量ノ石炭ヲ貯藏シ上陸地ニ於ケル諸般ノ需要ニ應セシムル
トキハ極メテ便利ナリトス之レカ爲メ通信船ハ多量ノ炭水ヲ貯藏スルニ
適スル構造ノ船舶ヲ採用セサルヘカラス
通信船ニハ信號旗並ニ發光信號燈ヲ始メトシ信號書及ヒ諸要具ヲ完備シ
艦隊旗艦燈臺等トノ通信ニ差支ヘナカラシム特ニ海軍將校ヲ乗組マシメ
若干ノ信使兵ヲ附シテシムルヲ要ス

病院船

軍醫以下衛生員ヲ乗込マシメ衛生材料ヲ備ヘ作戦地附近殊ニ上陸地附近ニ於テ戰地病院(野戰病院)兵站病院等ヲ設ケル能ハサル時機ニ在ツテ附近ノ港灣ニ碇泊シテ患者ヲ收容シ或ハ各地ニ巡回シテ患者ヲ收容治療スルヲ目的トス但シ満足ニ至レハ内地ニ歸リ患者ヲ揚陸ス
病院船ニ採用スヘキ汽船ハ船體成ルヘク大ニシテ風浪ニ對シ極メテ安全ナルヲ要シ且ツ平常旅客専用ニ充ツルモノハ如キ客室多キ汽船ナルヲ要ス

患者輸送船

戰地ノ患者ヲ收集シ内地ニ運送スルヲ目的トス而シテ乘組人員材料等病院船ト異ルコトナク實際區別ナキニ至ルコトアリ

軍隊輸送船

作戦ノ初期及作戦中ニ在ツテハ間斷ナク軍隊ノ輸送ニ充用ス又戰爭終レテ軍隊ノ還附ニ充用ス

軍需品運搬船

戰地ノ軍需品ヲ運搬スルニ依ルハ勿論ナリト雖モ内地ヨリ輸送シヘキ糧食其他ノ軍需品ニ就テモナルモノト見做ササルヘカラス

軍需品ノ運搬ニハ帆船ヲ用ユルヲ得ルト雖モ潮流及ヒ季節ニ於ケル風ノ方向等ニ依リ著シク航海日數ニ長短アリ日數ヲ限ルヘキモノニ在ツテハ蒸汽船ヲ用ヒテ電カシメサルヘカラス
以上ノ如ク舟ノ用途ヲ大別シ得ヘント雖モ實際ハ彼此混合流用スヘキニ至ル例ヘハ定期交通船ニ後送患者ヲ搭載シテ病院船ヲシテ交通船ヲ兼ネシメ軍需品ヲ軍隊ト同船ニ搭載スル等ナリ

(五) 配船

輸送官衙ハ配船表及ヒ其副表等ヲ調製シ以テ各船ニ搭載スヘキ部隊人員馬數軍需品乗陸用材料等並ニ出帆時日航路等ヲ知ラシム
一 船泊ニ搭載スヘキ人員馬及物品ハ船泊ノ大小ニ從ヒ一定スル能ハス

一船船ニ搭載シ航海中軍紀ヲ維持給養ノ便利及揚陸後直ナニ從事スヘキ勤務ニ障礙ナカラシムルヲ要ス
 上陸ノ際ニ使用スヘキ棧橋材料ノ如キハ其位置ニ任スヘキ部隊例ヘハ工兵隊ト同船ナラシム
 同種ノ品目ハ數船ニ分チテ搭載スルヲ良トス之レ離船ニ逢フモ盡ク其種ノ品ヲ失フコトナカラシムル爲メナリ
 人馬及ヒ物品ノ容積ヲ算定スルニハ概ネ左ノ表ヲ規準トスヘシ

人馬物品容積概算表

區分	尺	度	備考
人ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄六尺以上		二週間以内ノ航海ナル時ハ甲板ノ高サ六尺以上ノ船ニ在ツテハ客棚ヲ二段ニ設ケ室内ノ通路ハ其幅二尺以上トナシ兵卒ノ居室ニ充ツルモ妨ケナシ
馬ヲ容ルヘキ船室ノ高サ	上下兩甲板ノ高サ船梁迄七尺以上		

船艙ニ通スヘキ艙口ノ幅	方一丈以上	馬欄ハ内部ノ幅二尺二寸長サ六尺ヲ要スルヲ以テ外部ノ積チ以テ本表ノ如ク測定ス我國ノ馬匹ニ在ツテハ馬サナ六尺四寸ニ減スルモ差支ヘナシ幅三丈三尺以上ノ船ニ在ツテハ馬欄ニ一列ツハ馬欄ヲ設ケ中間ニ丈、馬欄下舷側トノ間ニ三丈三尺ノ間隔ヲ存スレハ尤モ可ナレトモ短日ノ航海ニ船艙欠乏ノ時ニ於テハ斯ノ如キ餘裕ヲ望ムハカラス一容積ノ大ナル物品ハ四十立方尺ヲ以テ一噸ニ算ス	
將校一人ノ船室	縱六尺橫五尺高サ六尺		
同 寢室	縱六尺橫二尺高サ六尺		
下士兵卒一人ノ居室	縱六尺橫二尺高サ六尺		
一馬欄ノ積	縱七尺橫三尺高サ七尺		
野砲一門(前車共)	縱一丈二尺橫五尺高サ六尺五寸		
彈藥車一輛(前車共)	右ニ同シ		
豫備品車一輛	縱一丈五尺橫五尺高サ六尺		
山砲一門	縱六尺橫三尺高サ三尺		

人馬材料搭船比積ノ概算

區分	船	噸	備考
----	---	---	----

兵士一人	一分一乃至四分三	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百
馬匹一頭	四人ニ當ル	英國ノ四連同ノ糧食運送ニ備ヘタル歩兵一大隊ニ總噸數四千噸ト概算セリ之レチ二人ニ計算セハ四連中ノ比ナリ又騎兵一中隊ハ四十噸ト算シ馬一頭ニ付キ十七噸ノ比トセリ
野砲車輛一輛	六人ニ當ル	若シ短距離ノ航運ナル時ハ一人ニ一噸半、馬一頭ニ五噸ヲ算スト云フ(糧食共ニ合算)
山砲一門	一人ニ當ル	各國ノ義勇艦隊ハ通常八千噸ナリ是レ二大隊ヲ載スルニ便ナル爲メナラン
騎兵一中隊	七百人ニ當ル	
砲兵一中隊	七百人ニ當ル	

軍隊ヲ配船スルニ當リ船噸數ト人馬材料ノ多寡トノ關係ハ左ノ法ニ由レハ船噸ニ搭載スヘキ人馬數ノ概略ヲ單簡ニ知ルヲ得ヘシ

$(1.7 \text{ 万 噸 } \times 2.5) + 10 \text{ 噸 } \times (6 \text{ 万 噸 } \times 7) = \text{船ノ總噸數} \dots \dots \dots$
 $(2.5 \text{ 万 噸 } \times 3) + 10 \text{ 噸 } \times (9 \text{ 万 噸 } \times 10) = \text{船ノ總噸數} \dots \dots \dots$
 上式ノ乘積ノ噸數ニ乗船スル人馬數ハ必シモ噸數ト比例セス

船噸ノ積造ニヨリ噸數ノ船舶ト雖モ乘船シ得ル人馬數ニ差異アルモノアリ或ハ人員ノ搭載ニハ適當ナルモ馬數ハ少數ナラサルヲ得ザルモノアリ或ハ之レニ反スルモノナリ

軍隊軍需用運送船ハ軍隊ノ大輸送ニ當リテハ何種ノ運送船ヲ問ハス軍隊ノ人馬材料ヲ滿載セシムヘキコト勿論ナリト雖モ補充用ノ軍需糧秣若クハ材料等ヲ輸送スルニ當リテハ其船種ニ應シ適當ノ配船ヲナスニアラサレハ宙ニ搭載揚陸ニ關スル不便ヲ來タスノミナラス船舶ノ運行上非常ノ溢滞ヲ來タスヘキハ言フ俟タス而シテ其人員馬匹ヲ搭載スルトキト糧秣材料等ヲ搭載スルトキトハ船内ノ配備全ク其趣ヲ異ニスルカ爲メ其都度馬欄客棚等ノ新設或ハ解除ヲ要シ時日ト手数トヲ徒費スルヲ免レサルヘシ又糧食品ノ種類ニヨリテハ甚々シク

コト能ハサル等ノコトアリ要スルニ貨物ノ種類ト使用ノ目的トニ應
 シテ運送船ヲ撰定配使スヘキモノニシテ是等ノコトタルニ當事者
 ノ經驗ト才能トニ依ルヘキモノニシテ豫メ一定ノ標準ヲ確示スルコ
 ト能ハスト雖モ從來ノ經驗ニ基キ左ニ其概略ヲ示ス

汽船種類	一軍	糧	材	料
旅客船	高等司令部其他急行ヲ要スル部隊	酒、煙草、寄贈品嗜好品	被服、衛生材料、至急ヲ要スル材料	
旅客及貨物船	歩兵、工兵、徒部隊	米、麥、乾糧品	車輛、砲工兵材料、彈藥類	
貨物船	砲兵、騎兵、輜重部隊、諸縱列及馬匹多キ部隊	罐詰、樽物類、其他溫糧品	建築材料、鐵道材料、石炭、水	

溫糧品ノ内梅詰ニセシ漬物、味噌、醬油類及ヒ薦包ニセシ鹽魚干魚等ノ類ハ戰時揚陸後ト雖モ水ノ臭氣ヲ船内ニ留ムルコト甚シキモノナル

フ以テ艦リニ諸船ニ搭載セシ成ルヘク毎回同一ノ船ヲシテ之ヲ搭載セシムル如ク配船スルヲ可トス
 馬匹ヲ搭載シタル船内ニハ揚陸後若干日間人員ヲ配乗セシメサルヲ要ス之レ馬匹遺臭ノ爲メ衛生ヲ害スレハナリ

(六) 雜件注意

船舶ノ速カ行程ハ一時間ニ十哩即チ一晝夜ニ二百四十哩ト概算セハ可ナリ

搭載速度ハ馬匹ハ一船口ニ於テ一時間ニ三十頭ヲ乘船セシメ得

解舟ハ地方ニ從ヒ一様ナラサルヘシト雖モ通常左ニ記スルモノハ平穩ナリ天候ニ於テ武裝セル兵員ナルハ四十乃至五十八人夫ノ如キハ

五十乃至七十人馬、四頭乃至六頭貨物、三百乃至四百貫ヲ載スルニ足ルヘシ

チキ 四十石乃至百石積 長サ三十尺乃至五十尺

イサバ 四十石乃至百石積 長サ三十五尺乃至五十尺

ヤゴ 百五十石積 長サ五十尺

ツワニ 四十石乃至八十石 長サ四十尺乃至五十尺

馬欄ノ數之レヲ許セハ馬百頭毎ニ五個乃至七個ノ豫備馬欄ヲ設ケ以テ掃除ノ便ニ供スルヲ可トス又別ニ百頭毎ニ三乃至四ノ比例ヲ以テ寬廣ナル馬房ヲ設置シ病馬ノ用ニ供スヘシ

糧秣ノ大輸送ニ當リテ其搭載量ヲ増ス爲メ船内ノ馬欄及ヒ客棚ヲ解除スルコトアリト雖モ中甲板以上ノ一部ニ設置シタル馬欄等ニシテ之ノ掃除スルニ當リテ積載量ニモ關係モサズモノハ成ルヘク其

成ルヘク其材料ヲ船内ニ收藏シ置クヲ可トス之レ運送船ノ航海先ニ於テ載貨揚陸ノ後直チニ其地ニ於テ軍隊ヲ搭載スルノ必要ヲ生スルコト屢々シハナリ

船内ノ配備ハ其總噸數ノ三噸毎ニ一人ツ、ノ割合ニテ人員ヲ搭載スルコトヲ標準トシ之レカ給養ヲナスニ充分ナル準備ヲ要ス
搭載場ハ成ルヘク數所ヨリ搭載シ得ヘキ地ヲ擇ムヘシ瀕岸廣潤ナル地ニ在リテハ各船舶ノ爲メ各自ノ搭載場ヲ定メ各場ノ間隔ハ少クモ二百米突ヲ要シ若シ一ノ船舶ニ數兵種混合シテ搭載スヘキトキハ各兵種ノ間ニ少クモ五十米突ヲ隔ツヘシ
凡テ搭載ノ順序ハ最モ先キニ揚陸セシメントスルモノヲ最後ニ搭載

積船時刻ノ詳解ノ狀況ニ因ルヘキモノナリト雖モ成ルヘク滿潮ノ時
ヲ可トス

○噸數ノ種類ニ付キ參考

世上噸ト稱スル者ニ種々ノ別アリ令之レヲ左ニ掲ク
容積ニ關スル噸數ハ才ヲ以テ單位トス即チ一呎立方ヲ一才トス
積積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才
船舶等ニ於テ總噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才
建簿噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 百才
方積噸數ト稱スルモノ、一噸ハ 四十才
鐵道ノ容積噸ト稱スルモノ、一噸ハ 百才

石炭ノ噸數ハ 重量
軍艦ノ噸數ハ 排水重量
重量ニ關スル噸數ハ佛英兩國其單位ヲ異ニス即チ左ノ如シ

佛國ノ一噸、一〇〇〇吉瓦 二六六貫六六六
英國ノ一噸ハ佛ノ一〇一六吉瓦ニ相當ス、二七〇貫九四
注意重量噸數ハ尋常物ニ於テ方積噸數ノ四分ノ三ト概算スル
ヲ得

其三 作戰計畫

作戰計畫ハ或ル一ツノ決心ヲ定メ此決心ヲ實行スル爲メニ取ルヘキ
一般ノ方針及ヒ施設ノ計策ニシテ毎日毎時變化スル所ノ情況ニヨリ
テ變日若クハ或ル時機ノ爲メニ軍隊ノ運轉ヲ畫策スル情況判斷ヲハ

自ラ大外ノ區別ヲモテカリ而シテ作戰計畫ノ初メヨリ終局ニ至ル迄一定不變ナルモノニアラス非常ノ變狀ヲ偶發スルコトアルニ當ツテハ止ムヲ得ズ一時計畫ヲ變セサルヲ得スト雖モ凡ソ敵狀ニ從ヒ略々實行シ得ヘキ程度ヲ判斷シ此程度マテ計畫ヲナシ其以上ハ一般ノ方針ニ基テ適宜ニ敵狀任務地形ヲ斟酌シテ作戰スルモノトス殊ニ敵ニ近クニ從ヒ情況ハ時々刻々變化スルヲ以テ既ニ此場合ニ至ツテハ到底一定ノ計畫ヲ履行スル能ハス故ニ作戰計畫ニ於テ細部ノ事迄豫定シ置クヘキモノニアラス多クハ徒勞ニ屬スル者ナリ

作戰計畫ヲ記述スルニ當ツテ固ヨリ一定不變ノ法式ナルモノナシ要スルニ其計畫單簡明瞭ニ現示セラル、ヲ主トス通常作戰計畫トシテ記スルハ左ノ項目ナリ

一 作戰計畫ノ方針

二 行軍計畫若クハ集中計畫

三 宿營計畫(多クハ集中ニ當リ必要ナルモノナリ)

四 上陸軍ナレハ上陸順序及ヒ上陸後ノ處置

右ノ外學習上ニ於テハ作戰地一般ノ地形ヲ論シ且ツ敵狀任務等ニ關スル判斷ニ基キ作戰計畫方針ノ理由ヲ論スルヲ要ス

乃チ作戰計畫ヲ立案スル爲メニ先ツ大方針ヲ決定セサルヘカラス此ノ方針ニ基キ諸種ノ計畫定マルナリ故ニ此大方針ヲ定ムル爲メニハ情況判斷地形判斷等種々研究ヲ要スルナリ

其四 集中計畫

集中計畫ハ各地方ニ在ル軍隊ヲ或ル目的地ニ集合スル爲メノ計畫ニシテ其尤モ主トスル所ハ迅速確實ニ集合セシムルコトヲ勉メサルヘ

カラス之レカ爲メニハ作戰上ノ願慮ハ勿論行軍路、鐵道、船舶ノ便否、沿道給養ノ如何等苟モ軍ノ生存行動ニ關スルモノハ微細ニ研究シ之レカ畫策ヲナサ、ルヘカラス。

(一) 集中豫定概略表

此表ハ徒步行軍或ハ船舶鐵道等ノ輸送ニ由ルノ如何ニ關セス各兵團ハ如何ナル經路ヲ取リ何日マテニ何レノ點ニ集中スルヤヲ一目瞭然タラシムルニ供ス

(二) 鐵道(船舶)輸送計畫表

此表ハ鐵道(船舶)ニ由テ輸送セララルヘキ兵團ノ輸送方法計畫ヲ表示スルモノナリ其計畫要領ハ前陳(其二)ノ如シ

(三) 行軍宿泊計畫表

此表ハ徒步行軍部隊ノ爲メニ日々ノ宿營地ヲ指示スル者ニシテ此計

畫ヲナスニハ成ルヘク同所ニ毎日逐次各部隊カ到着宿營セサル如クモナルヘカラス是レ集中行軍ニ當リテハ多クハ宿舍給養ノ便ニ據ルヲ要スルヲ以テ同地ニ連續軍隊カ宿營スルトキハ其地ノ供給力ヲ堪ヘ得サラシムル恐レアリ故ニ成ルヘク供給ヲ平等ニ各地ニ仰ク爲メ宿營地ヲ平等一般ニ配布スル如ク計畫セサルヘカラス

又取ルヘキ道路ハ兵種ニ由テ願慮セサルヘカラス假令ハ歩兵ハ多少道路粗惡ナルモ近距離ナルヲ主トシ騎兵ハ多少迂路ナルモ馬蹄ヲ損セサル爲メ柔軟ナル路盤ノ道路ヲ採用シ野砲兵ハ砲車通過ニ支障ナキ良路ヲ取ラシムル如シ宿營ノ廣狹ニ關シテハ成ルヘク給養ノ便ヲ主トスルヲ可トス

(四) 集中地宿營計畫表

目的地ニ集中シタル數多ノ部隊ヲ宿營セシムル爲メニハ各部隊ノ集

中地ニ到着スル順次ト作戰運動ヲ發起スルニ當リ使用ノ順序及ヒ便宜トヲ顧慮シ且ツ命令ノ連繫指揮監視ノ統一ナル如ク宿營地ヲ撰定セサルヘカラス此集中地ニ於ケル宿營ハ數多ノ兵力集合スルコトナレハ自然狹舍營ナルハ免レサル所ナリ
此計畫ハ或ハ略圖ヲ以テ示スヲ便宜トスルコトアリ假令一表ニ製スルモ各部隊ノ爲メニハ其宿營區域ヲ判然タラシムル爲メ略圖ヲ製シテ付與スルヲ可トス

(五) 給養計畫表

此表ハ集中途次及ヒ集中地ニ於ケル給養ノ方法ヲ規定スルモノニシテ集中地ハ大軍ナルトキハ到底該地ノ供給力ノミヲ以テ軍隊ヲ給養スル能ハス殊ニ永ク滞在スル時ニ於テ然リ此時ハ倉庫ヲ設置シ或ハ又集中途次ト雖モ通過ノ地方寒村僻地ナルトキハ宿舍給養ノ便ニ依

組スル能ハス故ニ以前ヨリ地方吏ニ命ジ各宿營地ニ糧秣ヲ準備セシムル等ノ處置ヲナササルヘカラス乃チ此給養計畫ヲ以テ地方ノ準備倉庫ノ設置必要ナレハ倉庫縦列ノ編成徵發方法地方等ヲ規定シ以テ何日何隊ハ如何ナル給養ニ據ルト云フコトヲ明示スルナリ

右ニ説ク外道路橋梁ノ改築集中地ニ於ケル諸設備兵器被服材料ノ補給並ニ等諸種ノ計畫準備ヲ要シ苟モ集中ナルモノハ作戰ノ大命脉ノ關スル所ナレハ注意周到遺算ナキヲ要ス

情況範例ヲ以テ實際ニ於ケル如ク精説スルハ下卷ニ於テセントス蓋シ其計畫タルヤ全ク時ノ情況ニ從フテ種々變化スルモノナレハ漠然諸種ノ場合ヲ想像シテ説述スルヨリハ一定ノ想定ニ基キ經過ヲ逐シテ實況ノ現出スル如ク研究スルヲ可トスルモノト
思慮スレハナリ

基本戰術摘要解義上卷大尾

基本戰術摘要解義上卷 大尾

數理摘要代數ノ部

定價八角
郵費二錢

加減乗除ノ法及ノ術
 二大分式ノ法
 三不定式ノ法
 四不定式ノ法
 五不定式ノ法
 六不定式ノ法
 七不定式ノ法
 八不定式ノ法
 九不定式ノ法
 十不定式ノ法
 十一不定式ノ法
 十二不定式ノ法
 十三不定式ノ法
 十四不定式ノ法
 十五不定式ノ法
 十六不定式ノ法
 十七不定式ノ法
 十八不定式ノ法
 十九不定式ノ法
 二十不定式ノ法
 二十一不定式ノ法
 二十二不定式ノ法
 二十三不定式ノ法
 二十四不定式ノ法
 二十五不定式ノ法
 二十六不定式ノ法
 二十七不定式ノ法
 二十八不定式ノ法
 二十九不定式ノ法
 三十不定式ノ法
 三十一不定式ノ法
 三十二不定式ノ法
 三十三不定式ノ法
 三十四不定式ノ法
 三十五不定式ノ法
 三十六不定式ノ法
 三十七不定式ノ法
 三十八不定式ノ法
 三十九不定式ノ法
 四十不定式ノ法
 四十一不定式ノ法
 四十二不定式ノ法
 四十三不定式ノ法
 四十四不定式ノ法
 四十五不定式ノ法
 四十六不定式ノ法
 四十七不定式ノ法
 四十八不定式ノ法
 四十九不定式ノ法
 五十不定式ノ法
 五十一不定式ノ法
 五十二不定式ノ法
 五十三不定式ノ法
 五十四不定式ノ法
 五十五不定式ノ法
 五十六不定式ノ法
 五十七不定式ノ法
 五十八不定式ノ法
 五十九不定式ノ法
 六十不定式ノ法
 六十一不定式ノ法
 六十二不定式ノ法
 六十三不定式ノ法
 六十四不定式ノ法
 六十五不定式ノ法
 六十六不定式ノ法
 六十七不定式ノ法
 六十八不定式ノ法
 六十九不定式ノ法
 七十不定式ノ法
 七十一不定式ノ法
 七十二不定式ノ法
 七十三不定式ノ法
 七十四不定式ノ法
 七十五不定式ノ法
 七十六不定式ノ法
 七十七不定式ノ法
 七十八不定式ノ法
 七十九不定式ノ法
 八十不定式ノ法
 八十一不定式ノ法
 八十二不定式ノ法
 八十三不定式ノ法
 八十四不定式ノ法
 八十五不定式ノ法
 八十六不定式ノ法
 八十七不定式ノ法
 八十八不定式ノ法
 八十九不定式ノ法
 九十不定式ノ法
 九十一不定式ノ法
 九十二不定式ノ法
 九十三不定式ノ法
 九十四不定式ノ法
 九十五不定式ノ法
 九十六不定式ノ法
 九十七不定式ノ法
 九十八不定式ノ法
 九十九不定式ノ法
 一百不定式ノ法

軍事研究所

軍事學會

東京牛込區市ヶ谷八幡町十四番地

明治三十二年九月十二日印刷
同 九月十六日發行

(正價自一編二冊金八拾錢
至四編)

著者 雲外居士

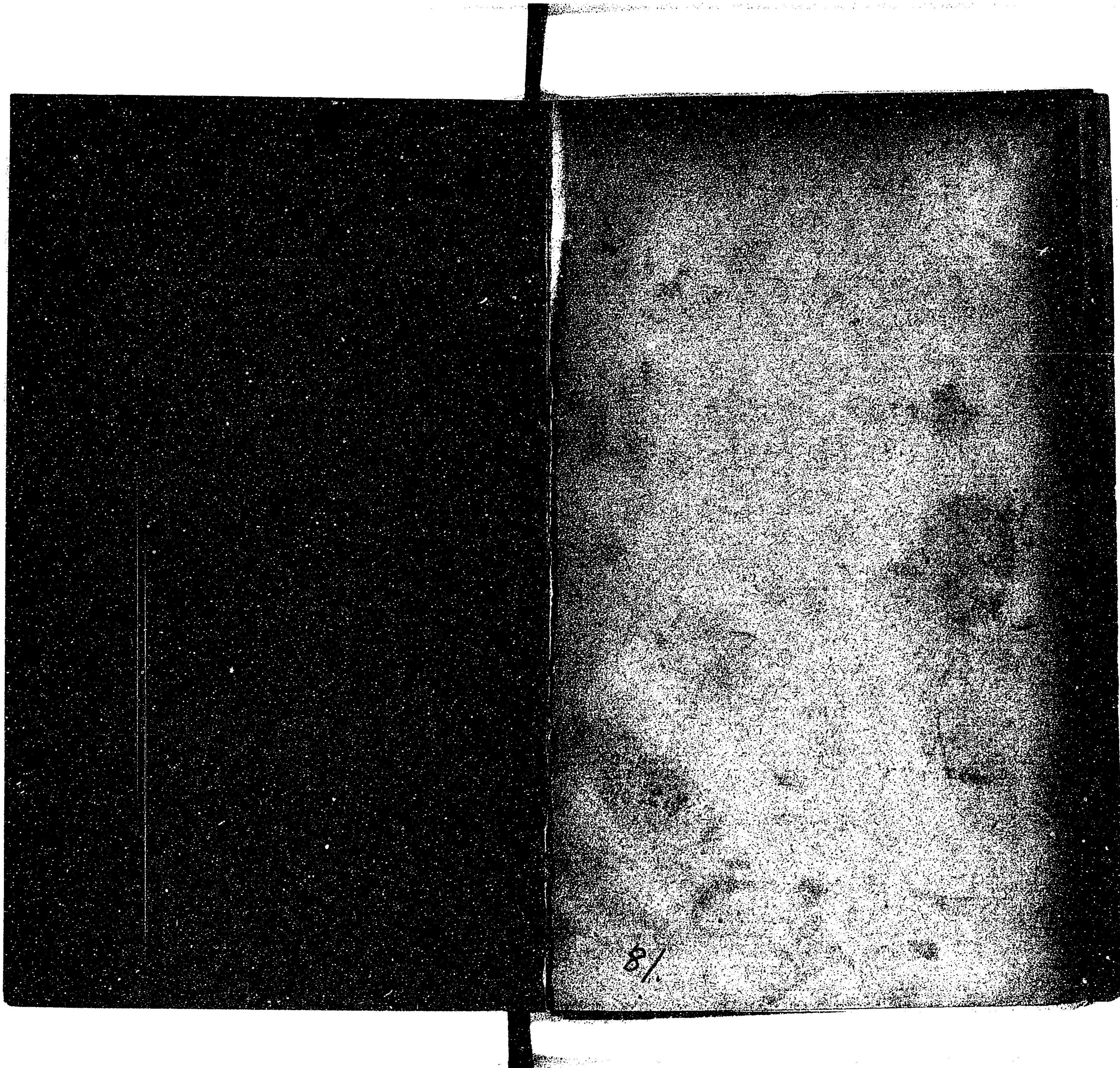
發行者 淺草區新福井町一番地
二階堂敬勝

印刷者 京橋區五郎兵衛町二十一番地
小林又七

印刷所 陸軍省內
小林出張所

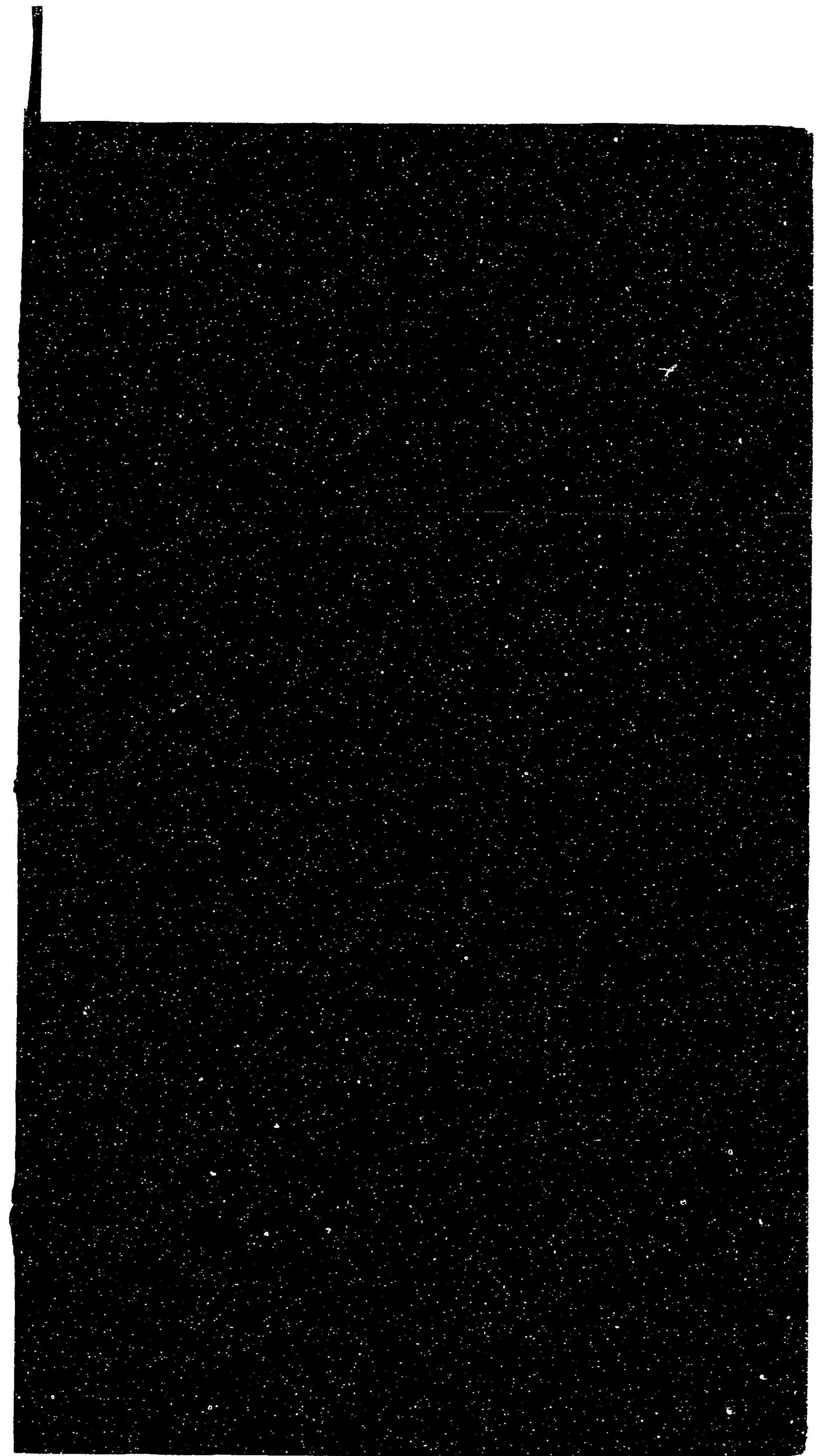
發賣所 麹町區隼町二十一番地
小林又七支店

同 仙臺市南光院町四番地
小林又七出張店



8

85
35



85

55

